

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600074		
法人名	社会福祉法人 大恵会		
事業所名	グループホームひなた		
所在地	栃木県日光市塩野室町 1902-125		
自己評価作成日	令和元年11月25日	評価結果市町村受理日	令和2年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hvoka/003hvoka/hvokanri.nsf/aHvokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和元年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が生きるために、居心地の良いひなたであり、我が家であるための居場所として、利用者様本位の生活を支援している。

また、毎日の食事は、職員一人ひとりが献立を考え、試行錯誤を重ねながら、利用者様の笑顔をもたらせるような家庭的な料理を提供している。

入浴も、一日3名を限度として、ゆっくり、清潔な湯に入ってもらいたいため、ひとり入浴すると、また新しい湯に入れ変えて、きれいで温かい湯に入ってもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営推進会議に現場の介護職員も参加している。利用者や家族、地域についての問題や課題について全職員で共有し、考え、解決できるように取り組んでいる。全職員が地域の一員であるという意識づけされる場となっている。

・職員は、利用者の言葉、表情、行動から、真意を把握するように努めている。理念である「みんなで作ろう明るいひなた」を実践し、全職員で利用者の思い、希望を叶えようと熱心に取り組んでいる。

・利用者の好みや季節の行事、旬の食べ物に配慮した献立を職員が考え、調理している。利用者は食事の配膳や食器を拭いたり、日常的な役割も垣間見え、食に対する興味や楽しみが抱けるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回グループホームとしての理念「みんなで作ろう明るいひなた」を事業所のリビングに掲げ、一日一回、職員各自で復唱し、利用者様の生きる居場所として楽しい生活を一緒に過ごしている。	事業所理念は全職員で話し合いを行い決めている。利用者と一緒に職員が一体となれる理念となっている。実際に物事を決めたり、運営についてはみんなで話し合いをもって決めている。また、入社時に理念の説明が行われ、会議の中で振り返る場を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのかかわりを積極的に持とうと、地域の行事に参加したり(今年度は夏の暑さや、利用者様の体調不良等により参加できていない行事もあった。)またゴミステーションの鍵を預かり1か月鍵の開閉や清掃を行っている。また、散歩をしている方にも積極的に声をかけている。	ゴミステーションの当番を引き受けたり、地域の芋煮会や餅つきに参加するなど地域とのお付き合いが多い。また、事業所の周りは開放的で、近所の方が散歩中に声をかけてくれたり、お茶をのみに来たりと交流も盛んである。さらに、近隣住民が事業所内の草刈りを買って出してくれる間柄になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の皆様のお力をお借りして、当施設のPRやどんな施設なのかを発信してもらっている。また、入所希望のため申請に来た方などにも積極的にアピールし当施設の存在を知っていただく努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、現在の利用者様の状況・毎月の行事とその実績報告、事故・ヒヤリハット等を報告し、それらの内容について意見交換し、利用者様へのサービス・支援に活かしている。	民生委員や地域住民の参加があり、意見交換が盛んに行われている。意見については地域の課題や支援に繋がる事例が多い。また、家族の参加もあり、双方意見を言いやすい会議ともなっている。事業所に対する意見が挙った場合は、事業所内での会議やミーティングで話し合わせ、支援向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日光市介護福祉課職員を運営推進委員に委嘱し、推進会議に参加していただき、意見交換している。また、担当課が開催する研修等には、出来る限り参加するよう努力している。	市とは窓口や電話でやり取りし、法改正による内容確認、契約書の変更、書類報告などこまめなやり取りを行っている。また、災害時や事故報告時は、相談や協力体制が構築されており、速やかな対応ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	推進会議の際、「身体拘束廃止への取り組みについて」の話し合いを設けて、その内容を職員に共有している。また、拘束についての施設内研修に参加し、参加できなかった職員には研修報告書により研修内容を理解して、身体拘束廃止へ職員一丸となって取り組んでいる。	運営推進会議で話し合った内容の共有や法人内研修に参加して、職員の意識向上に努めている。言葉の拘束には特に注意し、会議だけでなく支援の中でも声をかけあい、「拘束するのは仕方ない」に甘えず、「絶対しない」という意識で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の施設内研修に参加し、身体拘束同様その研修内容を研修報告書により理解し、虐待防止にも職員一丸となって取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に研修等は行っていないが、今後は職員もこれらの制度を理解していかなければならないと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規利用者様には、契約書・重要事項説明書を時間をかけて説明し、不安なことや、疑問に思うことにはその都度対応している。また、利用を希望されている方には、施設に来ていただき、中の雰囲気や申込書の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所した際には、挨拶を交わし、帰りには何か困っていることや、要望等を聞いている。また、玄関に意見箱を設けて、意見を書いていただけるように紙とボールペンを備えている。	日々の関わりの中で、利用者の要望や意見を聞き取っている。外食や外出についての要望・意見があり、運営に反映させたこともある。家族には、来所時もしくは電話や郵便で連絡し、要望を聞いている。実践後には家族にその結果や報告も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際や、その都度思ったことがあれば、聞いて対処している。どうしても対処できないことは、職員に説明し理解を求めている。	管理者は月に1回の職員会議の場で意見を聞く機会を設けている。会議の中で、時間に追われずゆとりをもって業務にあたれるようにしたいという職員の意見が出た際には、業務内容を見直し、ゆとりある対応ができるようになった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に意向調査を行い、自由に意見や、希望を書いてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得のための費用の補助、また職員が自ら受講したい研修や、その職員に受けてもらいたい研修などには、積極的に受講できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホームとの情報交換を図っている。グループホーム同士で訪問等の交流を行いたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始の利用者様の不安を解消するため、利用者様の話をよく聞き、また行動をよく見守りしながら、ここが安心して居られるところだと思っていただくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規に利用される利用者様のご家族様には、施設の運営方針を理解していただき、そのうえで家族様の要望や不安・困っていることを聞き、出来ること・できないことを明確にして、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様・ご本人様からこれまでの生活や、介護についての要望を聞き取り、グループホームで出来るサービスの内容やここでの暮らしがどのようになるのかを十分な時間をかけて話をする。その他利用者様が受けられるサービス内容の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできること、出来ないことを知り、出来ることは、一緒に行くことで絆を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の担当を決め、不足してきた物や季節の変わり目には服の入れ替え等を定期的に電話連絡し、施設に家族様が会いに来る機会を設けている。その際には、利用者様の現状の話をして、家族様と共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所には、時々買い物や、ドライブなどを兼ねて行くことができるが、馴染みの方との面会等は家族様の協力を仰いでいる。	普段、利用者が話していた馴染みの人や場所を家族に伝え、家族の協力を得ながら途切れない支援をしている。入居前のかかりつけ医を継続したり、昔から通っている美容室で髪を切っている方もいる。外出時には馴染みの場所をドライブするなど、途切れない配慮に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る場所は、利用者様の相性や、性格を考慮し決めており、一人の席の方には孤立しないよう、職員が側でフォローしている。また、気のあった者同士で座って談話できるスペースを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所のために契約が終了された利用者様には、新しく入所する施設に丁寧にご本人の状態を明記したものを作成し、電話でのやり取りもする。それでも、相談事などがある場合は、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが、利用者様の思い・希望を聞き入れ、それを共有している。また、どんな思いがあるのか、理解困難な時は、職員間で話し合い皆で理解しようと努めている。	日々の支援時から利用者との会話を一番に考え、意向把握に努めている。意思の疎通が困難な方でも、言葉や行動、表情から、どんな思いがあるのかを日々、職員間で話し合うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族様・関係者の方から、これまでの生活歴や、日々の生活の様子を詳細に聞き、利用者様には日頃の会話の中でも、好きな事や、嫌いな事、いろいろな話をする上で、利用者様のことを理解し、どんなサービスが提供できるかを考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の毎日の様子を記録し、心身状態に変化があった時は、職員間で共有し見守り強化をしている。また、現状のできる力を維持できるよう、様子を見ながら根気よく声掛けしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングを通して、利用者様の日々の様子や変化を分析したうえで、ご本人、家族や関係者と話し合い、本人・家族の意向に沿った介護計画書を作成している。	毎月の職員会議でモニタリング結果を共有している。状況が変化した利用者のアセスメントは全職員が記入し、介護支援専門員が本人、家族の意向に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は毎日の記録を確認し、情報を共有している。また、職員会議でも日頃の様子を確認し合いチームとして偏りのない支援を実践し、介護計画書の作成にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年々、年齢と共に身体・体力等が落ちてきている利用者様に、外食やドライブ、また系列の施設での行事への参加を無理のないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設で開催する行事に、地域のボランティアの方に来ていただき、歌・読み聞かせ・踊り等を披露していただいたり、草刈をしていただき、施設周りの環境を整えたり、また季節ごとの地域の行事にも、出来る範囲で参加させてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は当施設利用前からのかかりつけ医で対応をしていただいている。受診は家族が付き添い、その際にはバイタル・体調・最近の様子を家族様にお知らせしてかかりつけ医に話してもらっている。	入居前からのかかりつけ医が継続できるように支援している。通院は基本的に家族の付き添いを依頼している。家族対応の際には、日頃の様子が分かるように本人の様子を口頭で伝えている。また、必要に応じて医師とも電話やFAXでやり取りし、連携がとれるように努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置していないため、体調の変化に気づいたときは、かかりつけ医を受診していただいている。緊急時には施設の職員が随時対応し、受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に退院時は、退院カンファを行い、退院後もスムーズに施設での生活へ移行できるように努めている。入院途中も、病院に赴き、看護師や地域医療連携のスタッフと状態の確認や治療法などの確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、看取りのできる施設でないことを家族様に説明し、それでもできる範囲で支援していきたい旨の説明もしている。	看取り対応をしていないことを入居時に説明し、事業所で最大限できる支援を伝えている。また、状態変化がある時にも都度説明をしている。食事がとれなくなってきたり、集団生活が困難になってきた場合は、入院や他施設に移る提案を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修により、応急手当の講義や実践を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は実施しているが、地震・災害時の訓練はここ数年行ってない。また、災害時のマニュアルも本部の特養のマニュアルを応用し施設独自のものが無い。地域との協力体制も明確なものが未だに出来ていない。	火災時の避難訓練では出勤している職員全員で通報訓練を実施している。法人のマニュアルに沿って実施しているが、地域の協力体制を明確にした事業所独自のマニュアル作成には至っていない。	運営推進会議で市や地域の方にも協力を仰ぎ、マニュアル作成をきっかけに地域との協力体制構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内の接遇研修などに参加して、言葉かけや利用者様の人格の尊重を学んでいる。時折、大きな声になってしまう時は、その都度注意している。	施設内接遇研修で、人格尊重やプライバシーの確保について学んでいる。声掛けには特に注意しており、管理者自らが声の大きさや声掛けの仕方について職員へ伝えている。また、トイレや入浴時は本人が不快にならないような言葉かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望が言える雰囲気作りと、自己決定ができるような声かけになるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、習慣的に行っている体操や掃除も、その時気に向かない利用者様には、無理強いせず利用者様本位にされている。利用者様の一日のペースを乱すことのないよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や入浴後に化粧水などを提供したり、着替えの際は一緒に服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ランチマットのセッティングや配膳・食後の食器洗い等を分担して手伝っていただいている。また食事の食材を洗ってもらったり、英いんげんなどはさや取りをしてもらっている。	季節感を大切にし、味や見た目を楽しむ食事作りを心掛けている。また、食材や献立を決めるときは利用者から意見を出してもらうなど食への関心を高めている。その他、職員と一緒に食卓を囲んだり、利用者によりテーブル拭きや配膳などを一緒に行う姿も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事と水分の量を記録して、不足にならないよう心掛けている。また食事の内容は1週間の献立を職員が考え、栄養のバランスや色合いにも気を配っている。嗜好品や禁食も把握し、献立に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者様には、職員が口腔ケアを行い、自分のできる利用者様は、見守りながら、磨き足りないところの声掛けをしている。義歯の利用者様は就寝時に洗浄液に浸していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間とその内容を記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、パットの使用量を減らすべく、タイミングをみて声掛けをしている。	適切な排泄の声掛けと誘導により、オムツから紙パンツに移行できたケースがある。また、排泄パターンが決まっても、適切な用具使用になっているか、排泄方法に問題がないかを考察、検討し、本人に合った排泄方法を探っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・掃除で体を動かしていただいたり、ヤクルト・牛乳の摂取をして便秘対策に取り組んでいる。どうしても排便が無い時は、医師に相談し薬を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決めてしまっているが、一人が終わるとお湯を抜き新しいお湯に入れ替え、一人ひとりきれいなお湯に入っている。またその日の調子や気分により入浴を行っている。	利用者が気持ちよく安心して入浴できることを念頭に支援をしている。本人の状態によりシャワー浴や足湯の時もある。また、本人・家族が用意すれば、好きなソープでの洗身や洗髪も可能である。その他、季節に合わせたゆず湯や菖蒲湯を用意したり、普段は入浴剤で香りや色を楽しむ入浴支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は昼寝や、休みたいと思った時間に休んでいただいている。室内の温度の管理や、暑さや寒さを考えた寝具の調整も行っている。また、歩行が困難な方にはセンサーマットを置いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルにとじて、一人ひとりの薬の内容を把握し、処方内容に変更があった際には、申し送りノートに記録し、職員が共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体力や身体能力に合わせた役割分担をして、毎日の暮らしに張り合いを持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントにも積極的に参加し、施設での行事も、季節に合った計画を立て、外食やドライブ、また、家族様も参加していただくような行事も考えて実行している。外食は利用者様の好きな物を選んでいただいている。	定期的に法人内のイベントに参加して外出機会を増やしている。また、季節に応じてリンゴ狩り、紅葉狩り、お花見に出かけるなど普段とは違う外出も行っている。家族の協力で外食や買い物などに出かける利用者も多い。	歩行困難になってきた利用者が増えているが、重度になっても日常的な散歩や外出が出来ることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食時やリンゴ狩りの際に、一人ひとりの使う金額をお知らせし、職員が預かっている金額から支払うことを理解してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人が希望した時に、家族様に電話をして家族様にはその対応に協力していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃で共用のスペースは清潔を保ち、電気の明るさにも工夫している。四季折々の季節感を感じていただけるような飾りや、草花等を飾っている。	リビングには天窓があり、天気により左右されず採光よく、明るい空間となっている。また、事業所周辺に咲いている花を飾ったり、利用者が作成した工作を展示するなど、居心地よく過ごせる環境となっている。廊下や共用空間には、物を最小限にし、転倒・つまずき予防、混乱を招かない配慮が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーで横になって寛いだり、テレビの横のソファに座って気の合った方と談笑したり、テレビを観たり、新聞を読んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に家族の写真や、施設からの誕生日カード・色紙等を飾ったり、家で使っていたタンスや小物入れなどを持参していただき、自宅で過ごしているような雰囲気の中で過ごしていただいている。	電気のスイッチやエアコンのリモコンを低い位置に設置し、利用者が自分でするように配慮されている。日当たりもよく、持ち込まれている物が整頓され、動線が安全に確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりのカレンダーを設置して、毎日日にちと曜日を確認したり、居室がわからなくならないようにドアに名前を張ったり、トイレの案内板を張ったり利用者様が戸惑わないようにしている。		